

WAP571またはWAP571EでのLink Layer Discovery Protocol(LLDP)の設定

目的

Link Layer Discovery Protocol(LLDP)は、IEEE 802.1AB標準で定義されているリンク層検出プロトコルです。LLDPを使用すると、ネットワークデバイスは自身に関する情報をネットワーク上の他のデバイスにアドバタイズできます。LLDPは、論理リンク制御(LLC)サービスを使用して、他のLLDPエージェントとの間で情報を送受信します。LLCは、LLDPへのアクセスにリンクサービスアクセスポイント(LSAP)を提供します。各LLDPフレームは、単一のMACサービス要求として送信されます。各着信LLDPフレームは、MACサービス指標としてLLCエンティティによってMACサービスアクセスポイント(MSAP)で受信されます。

この記事では、ワイヤレスアクセスポイント(WAP)でLLDPを設定する方法について説明します。

該当するデバイス

WAP500シリーズ : WAP571、WAP571E

[Software Version]

1.0.0.15 — WAP571、WAP571E

WAPでのLLDPの設定

LLDPの設定の利点

IEEE 802.1ab標準に準拠

マルチベンダーデバイス間の相互運用性を実現

企業ネットワークのトラブルシューティングを容易にし、標準のネットワーク管理ツールを使用します。

VoIPなどのアプリケーションの拡張を提供します。

LLDPが有効な場合、WAPは、type-length-value(TLV)と呼ばれるタイプ、長さ、および値の説明に基づいて属性を送信します。

サポートされるTLVのタイプ

シャーシID TLV : シャーシIDサブタイプは4 (MACアドレス) で、シャーシIDはWAPのベースMACアドレスです

ポートID TLV : ポートIDサブタイプは3 (MACアドレス) で、ポートIDはWAPのベースMACアドレスです

[Time to Live TLV] : 存続可能時間は、LLDP送信間隔に4を掛けた値に設定されます

[システム名TLV(System Name TLV)] : システム名TLVは、システム名設定可能パラメータに設定されます

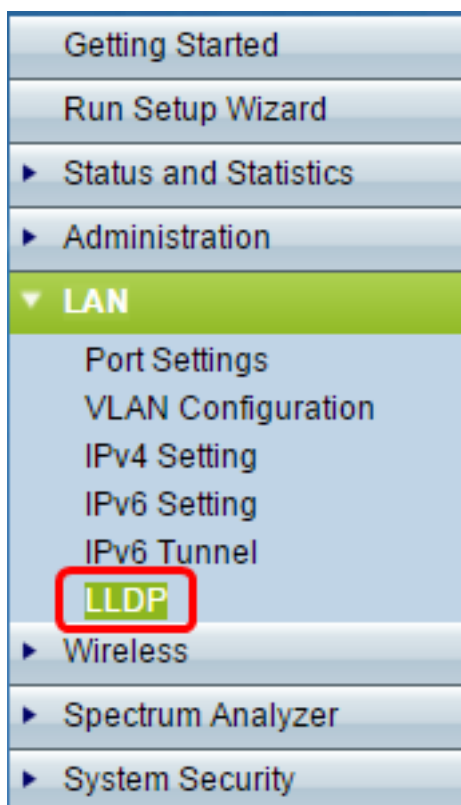
System Description TLV: System Description TLVはModelステータスパラメータに設定されます

System Capabilities TLV: WAPは、System CapabilitiesビットマスクとEnabled Capabilitiesビットマスクを同じ値に設定します。Wireless Local Area Network(WLAN) Access Point Capability (ビット3) は1に設定され、他のすべての機能ビットは0に設定されます。

LLDPの設定

注 : 次の図は、WAP571からキャプチャしたものです。

ステップ1 : アクセスポイントのWebベースユーティリティにログインし、[LAN] > [LLDP]を選択します。



ステップ2: [LLDP Mode]が[Enabled]に設定されていることを確認します。

LLDP Configuration

LLDP Mode: Enabled Disabled

TX Interval: (Range: 5 - 32768 sec, Default: 30 sec)

POE Priority ▼

注：デフォルトでは、[LLDP Mode]は[enabled]に設定されています。WAPでLLDPを使用しない場合は、[無効]に設定します。

ステップ3:[TX Interval]フィールドに値を入力して、再送信間隔の値を指定します。デフォルト値は 30 秒です。

LLDP Configuration

LLDP Mode: Enabled Disabled

TX Interval: (Range: 5 - 32768 sec, Default: 30 sec)

POE Priority ▼

ステップ4:[Save]をクリックします。

これで、WAPでLLDP機能が設定されました。WAPで送受信されたパケットをキャプチャして保存する場合は、パケットキャプチャ機能を設定します。手順については[ここ](#)をクリックしてください。